

議事録

審議会等名	令和7年度つくばみらい市在宅医療・介護連携推進協議会
開催日	令和8年3月11日（水曜日）
開催場所	つくばみらい市役所 伊奈庁舎 3階 大会議室
出席者	出席委員 小松崎八寿子会長、横張雅彦委員、宮本瞳委員、 南承佑委員、菊池芳英委員、菊地広志委員、本多めぐみ委員 事務局 保健福祉部：片倉部長 介護福祉課：中村課長、飯泉課長補佐、浅香主幹、原田 社会福祉協議会：坂本課長、阿部センター長 土井保健師、横田看護師、藤木看護師
議案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度取組実績報告</li> <li>・令和8年度取組予定</li> </ul>
議案概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会 午後1時30分</li> <li>・委員紹介</li> <li>・会長あいさつ</li> <li>・議事</li> </ul> <p>(1)「令和7年度取組実績報告」 (2)「令和8年度取組予定」</p> <p>&lt;議事(1)(2)について事務局より資料に基づいて説明&gt;</p> <p>(会長) 事務局より説明がありましたが、各職能団体の集まりがあるか、また、ある場合どのようなことが行われているのか教えていただきたい。</p> <p>医師は、3つの医師会に分かれて所属している。市内医師間には、SNSのグループネットワークがあり、情報共有を頻繁に行っている。市の事業に参加しているため、市主催での保健事業会議が開催されている。医師が集まり講演会も開催している。比較的風通しのよい関係づくりができていると感じている。</p> <p>グループ化事業で、グループを組んだ医療機関や訪問看護ステーションとの連携が進んだと感じている。</p> <p>(委員) 歯科医師は、つくばみらい市歯科医師会があり、さらに上位組織として、つくば歯科医師会がある。つくば歯科医師会は年1回講演会などの例会を開催している。つくばみらい市歯科医師会としての活動はない。訪問歯科に携わっている歯科医師は少ない。</p> <p>外来診療でも、オーラルフレイルにならないよう予防していく必要は感じている。</p> <p>(委員) 訪問看護は、つくば土浦ブロックがあり、定期的集まっている。また、近隣市の5事業所で情報交換会を行っている。今後行政とも連携を図りたいと考えている。</p> <p>(委員) 薬剤師は、つくば薬剤師会がある。会に入会していない薬剤師もいる。薬剤師が集まる会議や研修会があればぜひ参加したい。在</p>

宅患者の支援に力を入れたいが、休日や夜間の対応など、薬剤師間で話し合う機会があるといいと思う。

(委員) ケアマネジャーは、これまで有志で希望者が集まりケアマネ会を立ち上げ活動していたが、来年度つくばみらい市地区会を立ち上げることとしている。地区会は日本ケアマネジャー協会の下部組織となっており、職能団体としての位置づけとなる。会に入会しないケアマネジャーもいるため、入会の有無により連携に差が出てしまうことも懸念しており、より柔軟に地区会に関われるよう準備をしている。

(委員) 介護施設は、全国・県と団体があり、研修や委員会に参加している。県南地区の11施設が集まり情報共有をする会がある。会では、参集での意見交換のほか SNS を活用し様々な情報交換や相談の場として積極的な活動が行われている。

市内3施設の施設長間では、ちょっとしたことでも相談できるような関係性ができており、非常に良い関係づくりができています。

(事務局) ありがとうございます。今後各専門職の集まる機会や研修会などに顔を出させていただくため、個別にご相談させていただきたいと思います。

(会長) 保健所の立場から何かご意見等ありますか？

(委員) 県は、昨年度から在宅医療介護連携を推進するため、各市町村との連携を図っている。積極的役割を担う医療機関に指定されている診療所に直接出向き、どのようなことを行っているか、課題等について意見聴取を行ってきた。連携に大切なことはお互いを知ることであると感じている。

(委員) ACPやもしバナゲーム、ロジックモデルやゼロ次連携など、難しい用語が多く、事務局からの説明が分からないことがあった。詳しく教えてもらえるとよい。また、身寄りのない高齢者についていろいろな場で話題になることが多いが、身寄りがないことでどんな場面で何が問題になるのか、深掘りして考えていけるとよいと思う。

(会長) ACPやもしバナゲームなどは、重要な用語であり、専門職種だけでなく今後多くの方に知ってもらえるよう、周知啓発に努めていただきたいと思う。

(事務局) ゼロ次連携については、医療機関と介護事業所間の連携を推進するにあたり、同じ職種間の連携も重要ではないかと考え、独自に名前をつけさせていただいた。

ロジックモデルは、厚労省の手引に書かれており、「目指す姿」を実現するために何をどのように実施していくかについて可視化し関係者間で共有できるツールである。

身寄りのない方への支援については、入院時、施設入所、金銭の引き出し、契約などの事項が発生する際に苦慮することが多く課題となっている。ケアマネジャーもシャドウワーク的に対応してくれていることが多くあると思う。どのように支援していけるか

	今後も多職種で考えていく必要があると思う。 閉会 午後2時40分
その他	傍聴人 1人